

研究室紹介

富山大学教育学部 諸岡晴美

JR 富山駅から「坊ちゃん電車」を思わせるような情緒豊かな市電に揺られて 20 分のところに富山大学があります。前方に富山湾、右手に立山連峰の、海あり山ありのとても風光明媚な地です。特に立山連峰の美しさは富山県民の最大の誇りです。晴天には油絵のごとく真っ青な空と雪を頂いた山の対比が美しく、また曇天の日には墨絵のごとく幽玄の世界となります。

ところで、近年の教育学部への風当たりの強さは、暴風雨なみです。教員採用率の減少に伴う学生定員の削減につぐ削減、富山大学では、とうとう教員養成を捨て、17 年 10 月より一般学部へ改組することが決定いたしました。このような斜陽学部でありながら、細々と頑張っております。

当研究室は、教育学部の被服学研究室として存在します。しかし研究室の中には、教員養成の家庭科専攻学生よりも生涯教育課程人間環境専攻生活環境領域（いわゆるゼロ免課程）の学生の方が多く在籍しています。現在の住人は、M2（1 人）、4 年生（4 人）、企業からの派遣研究員（1 名）です。というわけで、被服と健康の科学を設計面から考えたり、教育面から考えたりしています。

以下は、当研究室の今年の研究テーマです。

1. 新しい加工を施したスポーツウェアおよび靴下の人体影響
2. 弾力靴下の設計に関する研究
3. 着装教育に関するコンピュータ支援プログラムの開発

今年度から国立大学が独立法人となり、非常勤講師が 85% 減、研究費は昨年より 50% 減、担当講義は 2 倍、雑用は 2 倍。じっくりと考える時間がなくなってきているというのが実情です。それでも研究の楽しさを学生に伝える努力をしています。健康との関わりを研究するためには、チームワークが必要とばかりに、ひたすら学生とのコミュニケーションのためにティータイムをとっています。これが私のストレス解消でもあります。

以下に学生の声をお聞きください。ややお世辞が入っているようですが・・・。

#####

私たち学生は先生のきめ細かい指導のもと、快適な被服設計について毎日研究に取り組んでいます。研究室の窓から春には満開の桜、夏には呉羽山の深緑、秋には色とりどりの紅葉、冬には大量(!)の雪を眺めながら頑張っています。一日があっという間に過ぎる日々です。現在は強い西日と先生の後光を浴びながら、私たちも先生のパワーに負けないよう 120% の力を出し切るよう努力しています。教育学部で最も活気のある研究室であると同時に、先生とゼミ生はまるで親子のように仲良くしていると自負しています。（ゼミ学生より）

#####

最後になりましたが、平成 17 年 3 月 19 日には、この美しい、そして食と酒の美味しい当地で科学研究費補助金による研究成果公開講座を開催いたしますので、皆さん、ぜひおいでください。